

研究林業務報告

2005(平成17)年度

京都大学フィールド科学教育研究センター

森林・里域フィールド管理部門

2007. 2

研究林業務報告の発刊にあたって

フィールド科学教育研究センター（フィールド研）は、2003年4月に理学研究科附属瀬戸臨海実験所（和歌山県白浜町）と農学研究科附属演習林（北海道・京都府・和歌山県・山口県）・亜熱帯植物実験所（和歌山県串本町）・水産実験所（京都府舞鶴市）を統合し、全学共同利用施設として発足しました。これらの旧施設のうち演習林は研究林と名前を変え、フィールド研としての全学的利用や法人化に伴う時代の要請に応えつつ、研究教育フィールドとしての内外の要望に応えるとともに、長期的データの蓄積など重要な役割を担っています。

フィールド研の技術職員数は全学で最も大きな部局である工学研究科よりも多いと聞いています。それは全国7ヶ所にある研究林や試験地は広大な面積を有し、その維持管理、木材搬出、実習や研究の支援など多様な業務に従事する必要があるからと思われる。技術職員のため日々の業務の積み重ねがあつてこそ、森という長い時間の中で姿を変えながら存続していく生物圏の実態が把握できることとなります。このような日頃の“縁の下の力持ち”的な活動を、業務報告・技術報告・気象報告・研修報告等にまとめ、記録として残しておくことは大変重要なことであり、個々の技術職員の自己研鑽の励みにもなると思われます。また、常に危険を伴う現場での作業であるために安全優先面でも共通認識を持つ上でも重要な役割を果たすと思われます。

地球環境が人間活動の膨張によりかつてない速度で変化しつつある現在、森林の重要性が世界的に改めて認識され、環境教育フィールドとして関心も高まりつつあります。森林系技術職員の皆さんがそうした時代の流れを読み、これまで以上に新しい役割としての教育への支援面でも活躍していただくことを願っています。

本研究林業務報告が内外の多くの皆さんの目に触れ、御批判・御助言を受けながら、毎回内容が充実することを期待し、発刊にあたっての御挨拶とさせていただきます。

平成19年2月

京都大学フィールド科学教育研究センター

技術部長 田 中 克

目 次

研究林業務報告の発刊にあたって 技術部長 田 中 克

業務報告

業務概要	3
芦生研究林	6
北海道研究林（標茶区）	10
北海道研究林（白糠区）	14
和歌山研究林	17
上賀茂試験地	21
徳山試験地	29
北白川試験地	32
立木伐採量	35
研究林収入	35
育林総括表	36
林道総括表	36

技術報告

和歌山研究林における渓流水の特性	39
和歌山研究林に設置された量水堰の概要	43
有田川流域の河川水の pH・EC の変化（第1報）	46

気象報告

芦生研究林	51
北海道研究林（標茶区）	52
北海道研究林（白糠区）	53
和歌山研究林	54
上賀茂試験地	55
徳山試験地	56
北白川試験地	57

研修報告

技術職員研修	61
平成17年度国立大学法人北海道大学北方生物圏 フィールド科学センター森林圏ステーション技術職員研修	62
平成17年度中国・四国地区大学附属演習林技術職員研修	70
第12回東海地区農学部附属演習林技術職員研修	75
平成17年度京都大学フィールド科学教育研究センター技術職員研修	77
第14回九州地区国立大学法人農学部附属演習林等技術職員研修	84
第8回関東甲信越地区演習林技術職員研修	87

第8回農学研究科技術職員研究集会	96
京都大学技術職員研修（第30回）	97
京都大学技術職員研修（専門研修）（物質・材料系）	98
京都大学技術職員研修（専門研修）（生物・生体系）	99

資 料

林種・林相別面積蓄積集計表	103
林道の現況	104
利用状況総括表	105
学生実習等	106
会 議	109
免許・資格等の取得者	110
安全衛生に関する講習会等	110
管理技術部組織図	111
技術職員配置表	112

技術報告

京都大学フィールド科学教育研究センター
森林・里域フィールド管理部門

研究林業務報告 2005（平成17）年度

平成19年2月28日 発行

発 行 京都大学フィールド科学教育研究センター管理技術部
森林・里域フィールド管理部門
〒606-8502 京都市左京区北白川追分町

印 刷 株式会社 北斗プリント社
〒606-8540 京都市左京区下鴨高木町38-2

